

第1部 20周年記念事業講演会

認知と行動のサイエンス

～見えている世界が本当に全て？～

令和6年 1月28日 日

13:00～14:30 (開場12:30)



私たちが見たり感じたりする世界は、脳が処理している情報のほんの一部です。本講演では、不意に起こる日常のうっかりミスや、歩行中の転倒を題材として、認知と行動の不思議に迫ります。

講演では有名なデモンストレーションを体験していただきながら、認知機能のうち特に注意の機能について理解します。そのうえで、認知と行動の知識をうっかりミスや転倒の防止にいかにつなげていくかについて考えていきます。

会場：中央文化センター（ホール）

講師：樋口 貴広 (東京都立大学人間健康科学研究科教授)



プロフィール

2001年 東北大学文学研究科修了、博士（文学）
2003年 日本学術振興会特別研究員
2004年 ウォータールー大学（カナダ）客員研究員
2006年～首都大学東京人間健康科学研究科助教、
准教授を経て2015年より現職

運動制御を支える知覚・認知的な情報処理過程に着目した研究を行っている。研究成果を高齢者の転倒予防やリハビリテーションに応用する試みを行っている。

入場無料
申込不要
定員300名
手話通訳あり